

学級担任のまなざし 26

Okayama Prefectural Education Center

R2.7.13(Mon)

「友達の言葉」

ある教室での出来事です。担任が不在だったので、代わりに指導に入っていました。帰りの会で、日直の子どもが「今日めあてが守れた人は手を挙げてください。」と言いました。何人かの子どもが手を挙げました。次に、日直の子どもが「今日めあてが守れなかった人は手を挙げてください。」と言いました。また何人かの子どもが手を挙げました。(守れなかった人に、どう言うのかなあ)と思って見ていると、急に、日直の子どもが「今、どちらにも手を挙げなかった人がいます。もう一度聞きます。必ずどちらかに手を挙げてください。」と言って、聞き直しました。あまりの毅然とした態度に驚きました。同時に、「なかなか、すごいな。」と思いました。

「めあてが守れた人は手を挙げてください」と言われているのに、手を挙げないままで済ませてしまうと、「日直の友達の言葉は、聞き流しておいてもいい」ということになってしまいます。「めあてが守れなかった人は手を挙げてください」と言われているのに、手を挙げないままで済ませてしまうと、日直の友達の言葉は、ただ聞こえているだけの無意味な音になってしまいます。そもそも日直の友達の言葉を聞こうとしていなかったり、聞いていても知らん顔をしていたりするのは、大きな問題です。

授業中の友達の発言や朝の挨拶の号令、給食開始時の「手を合わせましょう」の挨拶などの場面で、友達の話をきちんと聞こうとするところや、友達の言葉をしっかり受け止めるところから、友達同士のつながりが生まれ、人間関係ができ、友情が育まれるのだと思います。この教室の担任は、普段の生活の中のほんの小さなことから、友達の言葉を大切にしている指導を行っている様子うかがえる出来事でした。